

## 令和6年度学校評価 年度当初基準表（具体的方策と留意事項）

重点目標	1 授業づくり 2 安全で安心できる環境づくり 3 働き方の改善		
項目	重点目標	具体的方策	留意事項
I 授業づくり	<p>よりよい教育課程の編成に向け、教員全体で話し合い、学び合う。</p> <p>障害特性の理解を深め、卒業後の「いきジョイの実現」を見据えた小学部・中学部・高等部とつながりのある指導・支援を行う。</p> <p>一人一人が各教科等のねらいを踏まえた授業づくりを行う。</p>	<p>&lt;小学部&gt; 児童の行動を理解するための枠組を教員間で共有し、児童の望ましい行動を増やしていくための指導・支援方法についてチームで考え、実践する。</p> <p>&lt;中学部&gt; 学習指導要領を踏まえた指導計画、授業計画を作成し、実践を通して中学部の教育課程や日課の見直しを行う。</p> <p>&lt;高等部&gt; 令和6年度の教育課程メジャーバージョンアップに伴い、部全体でカリキュラムマネジメントを進める。 「もっといい授業、もっといい学び」のために、次なる手だて（改善案）を明確にする。</p> <p>&lt;施設内学級&gt; 個々の特性を理解し、活動内容の充実を図り、個に合わせた授業を実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会で児童の行動とその機能を理解するための枠組（ABC分析と行動の機能分析）を発信し、共有する。</li> <li>・強度行動障害が見られる児童について、学年等で検討する機会を設ける。</li> <li>・部の児童について情報共有を図る場を設定する。</li> <li>・学習指導要領に示された各教科等の目標や学習内容に基づく年間指導計画や授業計画を作成する。その際、昨年度確認した「学びすぎ、学び残し」の学習内容を反映することに留意する。また、重複障害学級の合わせた指導における各教科の占める割合や学習内容の確認を行う。</li> <li>・作成された年間指導計画や授業計画をもとに生徒にとって分かりやすい学習環境を工夫しながら、授業実践を行う。</li> <li>・教務部と連携し、授業実践等の反省や小学部、高等部の教育課程を踏まえて中学部の教育課程編成表や日課表の見直しを行う。</li> <li>・「いきジョイの実現を目指した、もっといい授業、もっといい学び」を合言葉に年間指導計画や授業計画などの再編を進める。</li> <li>・新教育課程運用で明らかになる課題やR9新設校開校、社会情勢などを踏まえて、より効果的な学びを提供するためのアイデアを未来志向で出し合う。</li> <li>・個に合わせた授業を行う中で、次年度へのつながりを意識した活動内容を検討する。</li> <li>・児童・生徒の実態を明確に捉え、個の特性を生かせるような教材の工夫、授業展開を考える。</li> <li>・病棟との連携を図り、児童の体調に合わせた安全な環境の中で安心して授業が実践できるようにする。</li> </ul>

		<p>&lt;研修部&gt; 教員が部間のつながりを意識しながら、児童生徒一人一人の指導や支援について考え、実践できるようにサポートする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部を越えて、互いに気軽に授業を見合う機会として、「部を越えた自由な授業参観」ができる期間を設定する。</li> <li>・外部講師による研修会を実施し、教員の専門性の向上を図る。</li> </ul>
		<p>&lt;保健体育部&gt; 児童生徒の健康課題に対し、適切な支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の健康状態を適切に把握し、個々の状態に合った保健の教育を進める。</li> <li>・担任や保護者と連携し、継続した支援を目指す。</li> <li>・食に関する児童生徒の実態を把握し、個に応じた支援を進めるとともに、給食の様子や食育支援の方法を、食育だより等を通して発信していく。</li> </ul>
		<p>&lt;自立活動部&gt; 自立活動のねらいを踏まえた授業づくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部専門家活用事業等を活用し、外部専門家のアドバイスを受けながら、自立活動のねらいを踏まえた授業づくりを推進していく。</li> <li>・「自立活動だより」や「自立活動相談報告」などを発信する中で、発達段階に合わせたよりよい支援方法や自立活動のねらいを踏まえた授業づくりについての理解を深める。</li> </ul>
		<p>&lt;教育支援部&gt; 児童生徒の支援において、関係機関との連携を図り、学校全体で取り組める様々な支援方法を共に考える場をつくり、実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田市こども発達センターとの相談会、豊田市強度行動障がい支援員派遣事業、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを活用する。</li> <li>・選択研修を通して、特性理解・支援方法を提案する。</li> <li>・専門家の意見を校内に分かりやすく情報発信する。</li> </ul>
<p>2 安全で安心できる環境づくり</p>	<p>お互いの人権を尊重し合える環境づくりを進める。</p> <p>災害等に備える視点と突発的な事態に対応する視点で一人一人が危機管理意識をもち、組織的な対応力を高める。</p> <p>積極的な情報発信・情報共有を進め、保護者、関係機関、地域との連携を深める。</p>	<p>&lt;小学部&gt; 児童が安心して笑顔で過ごし、成長できるように、主体的に行動ができる環境をつくったり、成長につながる適切な言葉かけや関わり方について考えたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温かな言葉かけと柔らかな支援を心掛ける。</li> <li>・視覚支援や構造化を踏まえて、児童が分かりやすい環境づくりを進める。</li> <li>・チーム・ティーチングの在り方について振り返り、児童が分かって自ら動くことができる環境づくりに努める。</li> <li>・学年会や部会等で、児童の人権を尊重し成長につながる適切な言葉かけや関わり方について、情報提供したり、振り返ったりする機会を設定する。</li> </ul>
		<p>&lt;中学部&gt; 生徒の支援体制を整え、情報共有をしながら指導・支援にあるとともに、学習活動や部の取組を発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導・支援に困った生徒については、教育支援部や外部機関と連携し、学年、部などで情報を共有し、チームで対応にあたる体制を作り、実行する。</li> <li>・生徒の日常的な学習活動や行事、職員の取組などを積極的に通信、HP等で発信する。</li> </ul>

		<p>&lt;教育情報部&gt; 校外向けホームページで学校の取り組みを発信し、安心できる学校のイメージを高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より活用しやすいよう、内容や機能の更新を進める。</li> <li>・1年間の更新予定を立てて、データの収集を計画的に行う。</li> </ul>
		<p>&lt;生活指導部&gt; 緊急時の際、児童生徒職員が、どう行動すべきか基本的な動きを理解し、その時その場で判断し対応する力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練や研修を実施し、緊急時にとるべき行動を確認し、実際に動けるようにしていく。</li> <li>・緊急対応のあり方を、訓練を計画、実施、反省する中で検証し、より本校にあった形をつくっていく。</li> </ul>
		<p>&lt;進路指導部&gt; 教員や保護者に向けて、進路に関する発達段階に応じた情報を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部では、小学部の教員に向けて、進路の流れを周知することで、児童の具体的な進路先や小学部のうちに身に付ける力について、見識を深めることができるようにする。</li> <li>・中学部では、1年生で福祉サービス事業所の基礎的な知識を伝える。2年生で高等部卒業生の保護者に進路決定までの体験を講演していただく。3年生は、進路選択として本校高等部の説明と見学を実施する。</li> <li>・高等部では、教員や保護者に向けた進路の手引きを充実させ、進路に関する情報を確認できるようにする。</li> </ul>
		<p>&lt;保健体育部&gt; 安全で安心して学校生活を送れる環境づくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内巡視を定期的に行い、破損個所の早期発見、修理を行うとともに、不要物を速やかに撤去する。</li> <li>・ロッカー、棚の固定や配置に問題がないかを確認し、事故の未然防止に努める。</li> </ul>
		<p>&lt;教育支援部&gt; ニーズに応じたサポートや情報発信を進め、地域との協働体制を構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談活動、授業研修を中心に支援方法に関する情報を提供する。</li> <li>・研究会や本校が委員となっている各地域の会議で、本校の専門性を生かした取組を発信すると共に、情報交換や情報共有を通して、協働体制を構築する。</li> </ul>
		<p>&lt;高等部&gt; 生徒の指導・支援に時間をかけられるよう、学校の中にある業務、環境、仕組みを徹底的に改善する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何のため?」「誰のために?」「誰一人取り残さない方法」「それっていきジョイ?」の4つを皆で意識し、意見の違いなどを乗り越えながら、具体的かつ効果的な改善を実行する。</li> </ul>
<p>3 働き方の改革</p>	<p>職員一人一人の生活や働き方を認め、お互いに理解し支え合う職場づくりを進める。</p> <p>児童生徒及び職員の「いきジョイの実現」に向けて、児童生徒へ</p>	<p>&lt;総務部&gt; 職員室内のロッカー等の整理整頓を行い、事故等を未然に防ぐために安全対策を行っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員室内のロッカー等の整理整頓を呼びかけ、棚の上にある物の位置や表示等を改善する。</li> </ul>

<p>の指導・支援に時間をかけるための働き方の改善を学校全体で取り組む。</p>	<p>&lt;教務部&gt; 教務関係書類マニュアルや校務支援システムの有効な活用を進め、年度当初をはじめとした業務の改善を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の業務の過密さを軽減できるような活用方法の検討し、準備・作成を行う。</li> <li>・後半から反省を踏まえた実施計画案を作成す前年度することで、年度初めの繁忙期の業務削減を行う。</li> </ul>
	<p>&lt;研修部&gt; いきジョイ（校内研究）に全校で取り組み、「質の高い学び」「持続可能な学校」を同時に実現していくための働き方を全教員で共に考え、検討していく中で教育活動に取り組む環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「働きやすいみよしづくり」をテーマに、教員の専門性を高めつつ、子どもと向き合う時間を十分に確保するための時間づくりを検討するワークショップを8回計画し、実施する。</li> <li>・小学部、中学部、高等部、運営委員等と連携を図り、ワークショップに反映させる。</li> </ul>
	<p>&lt;教育情報部&gt; ICTを活用して業務の省力化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用して、業務時間の短縮化や工程の簡略化による人員の削減を図る方法を研究し、試行する。</li> <li>・アイデアを収集する。</li> <li>・生徒用タブレット端末などのICT機器の授業での効果的な使い方を共有する。</li> </ul>
	<p>&lt;自立活動部&gt; 自立活動に有効な動画を発信し、業務の効率化を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動に有効な動画を自立活動部で作成したり、職員から募ったりして、学校全体でそれらの動画を共有する。動画作成のための業務を減らすことで、効率化を図り、児童生徒への指導・支援の充実を図る。</li> </ul>
	<p>&lt;教育支援部&gt; 巡回相談等、各種記録の簡略化を行い、文書作成に要する時間の短縮を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エクセルを活用し、新様式を作成する。</li> <li>・巡回相談当日の手書き記録を活用して、端的に相談記録を残す。</li> </ul>
<p>学校関係者評価を実施する主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい教育課程の編成に向け、各教科のねらいを意識した授業づくりを行う。</li> <li>・お互いの人権を尊重しつつ、一人一人が自分事として考えた安全で安心な環境づくりと支援を行う。</li> <li>・職員の働き方の改善に取り組む、理解し支え合う職場づくりを進める。</li> </ul>	